

進路通信

5月22日

学部・学問情報

◆歴史学…各地、各時代の社会を検証して現代の社会に生かす

【学問の内容】

歴史学は、各国の各時代における歴史の特質を研究する学問である。西洋史はヨーロッパ、アメリカなどの歴史を学ぶが、最近ではアフリカ史、中南米史も扱うようになってきている。東洋史は中国、朝鮮、東南アジアなど、古代から日本と関連の深い国々の歴史を学ぶ。日本史はアジア諸国との関係にも触れながら日本の歴史を研究する。いずれも様々な時代や地域、歴史的な事件などについて文献、史料に基づいた実証的な研究を行う。

【卒業後の進路】

大学で学んできた専門知識を生かすことのできる教員、学芸員、司書などを希望する人が例年多いが、いずれも厳しいというのが現状。実際には、一般企業で働く人がほとんどである。また一方で、研究職をめざして、大学院へ進学する人が多いのも特徴である。

◆文化学…さまざまな文化と創造的思考の源を学ぶ

【学問の内容】

文化学は、文化を一つひとつの国や地域、民族から見たり、あるいは比較しながら研究を進めていく学問です。言語、哲学、宗教、文学、芸術、道徳、社会、民俗など、文化を構成する各専門領域を学び、あらゆる視点から研究していきます。教養学では人文科学的な思考や行動に加えて法律や経済など社会科学の知識も修得し、複雑な現代社会への的確で迅速な対応能力を身につけていきます。これからの社会では外国文化の理解、比較文化論や国際関係論の視点が重要です。

【卒業後の進路】

幅広い知識と国際的感覚を生かし、金融、商社、旅行業などの企業に就職する人が多い。そのほかにも、教員になったり、大学院に進学し、大学や研究機関の研究者になる人もいる。マスコミ志望者も多いが、狭き門のため実際に就職できる人は少ない。

◆哲学・倫理・宗教…“人間とその世界”についての研究

【学問の内容】

哲学では、人生・世界・事物の根本にあると思われる“ある原理”を究めていきます。哲学的思考によって、すべての事象の“本質”をつかもうとする学問です。哲学を学ぶ際には、基本的な知識、哲学思想の流れをつかみ、プラトンなど思想家の作品と、その背景や考え方を学びます。その中で、問題の立て方、考え方、解決の仕方など論理的思考力を養います。倫理学は、人間の行動や道徳を対象に、“人のあり方”を理論的に探る学問です。宗教学では、宗教の教理の理解と信仰心について学びます。“生と死”をめぐる生命倫理の問題を生物学や医学、さらに心理学と連携して研究するなど、哲学・倫理・宗教学はどれも、他分野との共同研究を通して“人間とその世界”を考察していく学問といえます。

【卒業後の進路】

以前は大学教員の道をめざす人以外に、出版社や教員の道に進む人が目立っていたが、現在では偏ることなく、多種多様な職種に就いている。最近では、特に論理的思考能力と考察力が評価され、コンピュータのソフト開発やソフト設計に取り組む人もいます。